

医薬品インタビューフォーム

日本病院薬剤師会のIF記載要領2013に準拠して作成

脳保護剤（フリーラジカルスカベンジャー）

エダラボン点滴静注 30mg バッグ「アイロム」
EDARAVONE

剤形	注射剤
製剤の規制区分	処方箋医薬品（注意－医師等の処方箋により使用すること）
規格・含量	1キット（袋）中（100mL）にエダラボン 30mg を含有
一般名	和名：エダラボン（JAN） 洋名：Edaravone（JAN, INN）
製造販売承認年月日 薬価基準収載・発売年月日	製造販売承認年月日：2011年1月14日 薬価基準収載年月日：2011年6月24日 発売年月日：2011年8月4日
開発・製造販売（輸入）・ 提携・販売会社名	製造販売：ネオクリティケア製薬株式会社
医薬情報担当者の連絡先	
問い合わせ窓口	ネオクリティケア製薬株式会社 学術情報フリーダイヤル TEL 0120-265-321 FAX 03-5840-5145 医療関係者向けホームページ URL https://www.neocriticare.com

本IFは2022年10月作成の添付文書の記載に基づき改訂した。
最新の添付文書情報は、医薬品医療機器総合機構ホームページ
<http://www.pmda.go.jp/>にてご確認ください。

IF 利用の手引きの概要 — 日本病院薬剤師会 —

1. 医薬品インタビューフォーム作成の経緯

医療用医薬品の基本的な要約情報として医療用医薬品添付文書（以下、添付文書と略す）がある。医療現場で医師・薬剤師等の医療従事者が日常業務に必要な医薬品の適正使用情報を活用する際には、添付文書に記載された情報を裏付ける更に詳細な情報が必要な場合がある。

医療現場では、当該医薬品について製薬企業の医薬情報担当者等に情報の追加請求や質疑をして情報を補完して対処してきている。この際に必要な情報を網羅的に入手するための情報リストとしてインタビューフォームが誕生した。

昭和 63 年に日本病院薬剤師会（以下、日病薬と略す）学術第 2 小委員会が「医薬品インタビューフォーム」（以下、IF と略す）の位置付け並びに IF 記載様式を策定した。その後、医療従事者向け並びに患者向け医薬品情報ニーズの変化を受けて、平成 10 年 9 月に日病薬学術第 3 小委員会において IF 記載要領の改訂が行われた。

更に 10 年が経過し、医薬品情報の創り手である製薬企業、使い手である医療現場の薬剤師、双方にとって薬事・医療環境は大きく変化したことを受けて、平成 20 年 9 月に日病薬医薬情報委員会において IF 記載要領 2008 が策定された。

IF 記載要領 2008 では、IF を紙媒体の冊子として提供する方式から、PDF 等の電磁的データとして提供すること（e-IF）が原則となった。この変更にあわせて、添付文書において「効能・効果の追加」、「警告・禁忌・重要な基本的注意の改訂」などの改訂があった場合に、改訂の根拠データを追加した最新版の e-IF が提供されることとなった。

最新版の e-IF は、(独) 医薬品医療機器総合機構の医薬品情報提供ホームページ (<http://www.info.pmda.go.jp/>) から一括して入手可能となっている。日本病院薬剤師会では、e-IF を掲載する医薬品情報提供ホームページが公的サイトであることに配慮して、薬価基準収載にあわせて e-IF の情報を検討する組織を設置して、個々の IF が添付文書を補完する適正使用情報として適切か審査・検討することとした。

2008 年より年 4 回のインタビューフォーム検討会を開催した中で指摘してきた事項を再評価し、製薬企業にとっても、医師・薬剤師等にとっても、効率の良い情報源とすることを考えた。そこで今般、IF 記載要領の一部改訂を行い IF 記載要領 2013 として公表する運びとなった。

2. IF とは

IF は「添付文書等の情報を補完し、薬剤師等の医療従事者にとって日常業務に必要な、医薬品の品質管理のための情報、処方設計のための情報、調剤のための情報、医薬品の適正使用のための情報、薬学的な患者ケアのための情報等が集約された総合的な個別の医薬品解説書として、日病薬が記載要領を策定し、薬剤師等のために当該医薬品の製薬企業に作成及び提供を依頼している学術資料」と位置付けられる。

ただし、薬事法・製薬企業機密等に関わるもの、製薬企業の製剤努力を無効にするもの及び薬剤師自らが評価・判断・提供すべき事項等は IF の記載事項とはならない。言い換えると、製薬企業から提供された IF は、薬剤師自らが評価・判断・臨床適応するとともに、必要な補完をするものという認識を持つことを前提としている。

[IF の様式]

- ① 規格は A4 版、横書きとし、原則として 9 ポイント以上の字体（図表は除く）で記載し、一色刷りとする。ただし、添付文書で赤枠・赤字を用いた場合には、電子媒体ではこれに従うものとする。
- ② IF 記載要領に基づき作成し、各項目名はゴシック体で記載する。
- ③ 表紙の記載は統一し、表紙に続けて日病薬作成の「IF 利用の手引きの概要」の全文を記載するものとし、2 頁にまとめる。

[IF の作成]

- ① IF は原則として製剤の投与経路別（内用剤、注射剤、外用剤）に作成される。

- ② IFに記載する項目及び配列は日病薬が策定したIF記載要領に準拠する。
- ③ 添付文書の内容を補完するとのIFの主旨に沿って必要な情報が記載される。
- ④ 製薬企業の機密等に関するもの、製薬企業の製剤努力を無効にするもの及び薬剤師をはじめ医療従事者自らが評価・判断・提供すべき事項については記載されない。
- ⑤ 「医薬品インタビューフォーム記載要領 2013」（以下、「IF記載要領 2013」と略す）により作成されたIFは、電子媒体での提供を基本とし、必要に応じて薬剤師が電子媒体（PDF）から印刷して使用する。企業での製本は必須ではない。

[IFの発行]

- ① 「IF記載要領 2013」は、平成25年10月以降に承認された新医薬品から適用となる。
- ② 上記以外の医薬品については、「IF記載要領 2013」による作成・提供は強制されるものではない。
- ③ 使用上の注意の改訂、再審査結果又は再評価結果（臨床再評価）が公表された時点並びに適応症の拡大等がなされ、記載すべき内容が大きく変わった場合にはIFが改訂される。

3. IFの利用にあたって

「IF記載要領 2013」においては、PDFファイルによる電子媒体での提供を基本としている。情報を利用する薬剤師は、電子媒体から印刷して利用することが原則である。

電子媒体のIFについては、医薬品医療機器総合機構の医薬品医療機器情報提供ホームページに掲載場所が設定されている。

製薬企業は「医薬品インタビューフォーム作成の手引き」に従って作成・提供するが、IFの原点を踏まえ、医療現場に不足している情報やIF作成時に記載し難い情報等については製薬企業のMR等へのインタビューにより薬剤師等自らが内容を充実させ、IFの利用性を高める必要がある。また、随時改訂される使用上の注意等に関する事項に関しては、IFが改訂されるまでの間は、当該医薬品の製薬企業が提供する添付文書やお知らせ文書等、あるいは医薬品医療機器情報配信サービス等により薬剤師等自らが整備するとともに、IFの使用にあたっては、最新の添付文書を医薬品医療機器情報提供ホームページで確認する。

なお、適正使用や安全性の確保の点から記載されている「臨床成績」や「主な外国での発売状況」に関する項目等は承認事項に関わることもあり、その取扱いには十分留意すべきである。

4. 利用に際しての留意点

IFを薬剤師等の日常業務において欠かすことができない医薬品情報源として活用して頂きたい。しかし、薬事法や医療用医薬品プロモーションコード等による規制により、製薬企業が医薬品情報として提供できる範囲には自ずと限界がある。IFは日病薬の記載要領を受けて、当該医薬品の製薬企業が作成・提供するものであることから、記載・表現には制約を受けざるを得ないことを認識しておかなければならない。

また製薬企業は、IFがあくまでも添付文書を補完する情報資材であり、インターネットでの公開等も踏まえ、薬事法上の広告規制に抵触しないよう留意し作成されていることを理解して情報を活用する必要がある。

(2013年4月改訂)

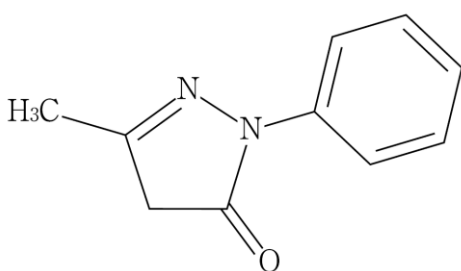
目次

I. 概要に関する項目		VIII. 安全性（使用上の注意等）に関する項目	
1. 開発の経緯	1	1. 警告内容とその理由	10
2. 製品の治療学的・製剤学的特性	1	2. 禁忌内容とその理由（原則禁忌を含む）	10
II. 名称に関する項目		3. 効能又は効果に関連する使用上の注意とその理由	10
1. 販売名	2	4. 用法及び用量に関連する使用上の注意とその理由	10
2. 一般名	2	5. 慎重投与内容とその理由	10
3. 構造式又は示性式	2	6. 重要な基本的注意とその理由及び処置方法	10
4. 分子式及び分子量	2	7. 相互作用	11
5. 化学名（命名法）	2	8. 副作用	11
6. 慣用名、別名、略号、記号番号	2	9. 高齢者への投与	13
7. CAS 登録番号	2	10. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与	13
III. 有効成分に関する項目		11. 小児等への投与	13
1. 物理化学的性質	3	12. 臨床検査結果に及ぼす影響	13
2. 有効成分の各種条件下における安定性	3	13. 過量投与	13
3. 有効成分の確認試験法	3	14. 適用上の注意	13
4. 有効成分の定量法	3	15. その他の注意	13
IV. 製剤に関する項目		16. その他	13
1. 剤形	4	IX. 非臨床試験に関する項目	
2. 製剤の組成	4	1. 薬理試験	14
3. 注射剤の調製法	4	2. 毒性試験	14
4. 懸濁剤、乳剤の分散性に対する注意	4	X. 管理的事項に関する項目	
5. 製剤の各種条件下における安定性	4	1. 規制区分	15
6. 溶解後の安定性	5	2. 有効期間又は使用期限	15
7. 他剤との配合変化（物理化学的变化）	5	3. 貯法・保存条件	15
8. 生物学的試験法	5	4. 薬剤取扱い上の注意点	15
9. 製剤中の有効成分の確認試験法	5	5. 承認条件等	15
10. 製剤中の有効成分の定量法	5	6. 包装	15
11. 力価	5	7. 容器の材質	15
12. 混入する可能性のある夾雑物	5	8. 同一成分・同効薬	15
13. 注意が必要な容器・外観が特殊な容器に関する情報	5	9. 国際誕生年月日	15
14. その他	5	10. 製造販売承認年月日及び承認番号	15
V. 治療に関する項目		11. 薬価基準収載年月日	16
1. 効能又は効果	6	12. 効能又は効果追加、用法及び用量変更追加等の年月日及びその内容	16
2. 用法及び用量	6	13. 再審査結果、再評価結果公表年月日及びその内容	16
3. 臨床成績	6	14. 再審査期間	16
VI. 薬効薬理に関する項目		15. 投薬期間制限医薬品に関する情報	16
1. 薬理的に関連ある化合物又は化合物群	7	16. 各種コード	16
2. 薬理作用	7	17. 保険給付上の注意	16
VII. 薬物動態に関する項目		XI. 文献	
1. 血中濃度の推移・測定法	8	1. 引用文献	17
2. 薬物速度論的パラメータ	8	2. その他の参考文献	17
3. 吸収	8	XII. 参考資料	
4. 分布	8	1. 主な外国での発売状況	17
5. 代謝	8	2. 海外における臨床支援情報	17
6. 排泄	9	XIII. 備考	
7. トランスポーターに関する情報	9	その他の関連資料	17
8. 透析等による除去率	9		

I. 概要に関する項目

1. 開発の経緯	エダラボン点滴静注 30mg バッグ「アイロム」は、共和クリティケア株式会社（現 ネオクリティケア製薬株式会社）が後発医薬品として薬食発第 0331051 号（平成 17 年 3 月 31 日）に基づき、規格及び試験方法を設定、加速試験を行い承認申請し、平成 23 年 1 月に承認を取得、平成 23 年 8 月に上市した。
2. 製品の治療学的・製剤学的特性	<ol style="list-style-type: none">1. 脳梗塞急性期に伴う神経症候、日常生活動作障害、機能障害の改善に適応を有している。2. 重大な副作用として、急性腎障害、ネフローゼ症候群、劇症肝炎、肝機能障害、黄疸、血小板減少、顆粒球減少、播種性血管内凝固症候群（DIC）、急性肺障害、横紋筋融解症、ショック、アナフィラキシーが報告されている。（頻度不明）3. エダラボン点滴静注 30mg バッグ「アイロム」は使用時に溶解・希釈操作が不要であるため外包装から取り出した後、速やかに使用することが可能である。

Ⅱ. 名称に関する項目

1. 販売名	
(1) 和名	エダラボン点滴静注 30mg バッグ「アイロム」
(2) 洋名	EDARAVONE
(3) 名称の由来	医薬発第 935 号「医療事故を防止するための医薬品の表示事項及び販売名の取扱いについて」に基づき、一般名に剤型及び有効成分の含量に関する情報を付した。
2. 一般名	
(1) 和名 (命名法)	エダラボン (JAN)
(2) 洋名 (命名法)	Edaravone (JAN, INN)
(3) ステム	不明
3. 構造式又は示性式	
4. 分子式及び分子量	分子式 : C ₁₀ H ₁₀ N ₂ O 分子量 : 174.20
5. 化学名 (命名法)	5-Methyl-2-phenyl-2,4-dihydro-3 <i>H</i> pyrazol-3-one
6. 慣用名、別名、略号、記号番号	特になし
7. CAS 登録番号	89-25-8

Ⅲ. 有効成分に関する項目

1. 物理化学的性質	
(1) 外観・性状	白色～微黄白色の結晶又は結晶性の粉末である。
(2) 溶解性	エタノール（99.5）又は酢酸（100）に溶けやすく、水に溶けにくい。
(3) 吸湿性	該当資料なし
(4) 融点（分解点）、沸点、凝固点	融点：127～131℃
(5) 酸塩基解離定数	該当資料なし
(6) 分配係数	該当資料なし
(7) その他の主な示性値	pH：本品 0.1g を水 100mL に溶かした液の pH は 4.0～5.5 である。
2. 有効成分の各種条件下における安定性	該当資料なし
3. 有効成分の確認試験法	(1) 赤外吸収スペクトル測定法（臭化カリウム錠剤法） (2) 紫外可視吸光度測定法
4. 有効成分の定量法	電位差滴定法

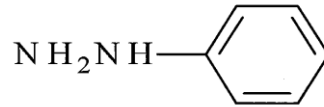
IV. 製剤に関する項目

1. 剤形 (1) 剤形の区別、外観及び性状 (2) 溶液及び溶解時の pH、浸透圧比、粘度、比重、安定な pH 域等 (3) 注射剤の容器中の特殊な気体の有無及び種類	製品名	エダラボン点滴静注 30mg バッグ「アイロム」					
	容量	100mL					
	有効成分	エダラボン	30mg				
	添加物	亜硫酸水素ナトリウム	20mg				
		L-システイン塩酸塩水和物	10mg				
塩化ナトリウム		900mg					
水酸化ナトリウム		16mg					
	pH 調整剤 (水酸化ナトリウム、リン酸)	適量					
2. 製剤の組成 (1) 有効成分（活性成分）の含量 (2) 添加物 (3) 電解質の濃度 (4) 添付溶解液の組成及び容量 (5) その他	外観	無色澄明の水性注射液					
	剤形	注射剤					
	pH	3.8～4.8					
	浸透圧比 (生理食塩液に対する比)	0.9～1.1					
	注射剤の容器中の特殊な気体の有無及び種類	窒素					
		Na ⁺ : 16.0mEq、Cl ⁻ : 15.5mEq を含有する。(1 袋(100mL)あたり)					
3. 注射剤の調製法	(1) 高カロリー輸液、アミノ酸製剤との混合又は同一経路からの点滴はしないこと。[混合すると、その後エダラボンの濃度低下を来すことがある。]						
	(2) 抗痙攣薬の注射液（ジアゼパム、フェニトインナトリウム等）と混合しないこと。[白濁することがある。]						
	(3) カンレノ酸カリウムと混合しないこと。[白濁することがある。] (「VIII-14 適用上の注意」の項参照)						
	該当しない						
4. 懸濁剤、乳剤の分散性に対する注意	該当しない						
	加速試験（40℃、相対湿度 75%、6 箇月） ¹⁾						
5. 製剤の各種条件下における安定性	試験項目	規格	試験開始時	12 箇月	24 箇月	36 箇月	
	性状	無色澄明の液である	無色澄明の液であった	無色澄明の液であった	無色澄明の液であった	無色澄明の液であった	
	pH	3.8～4.8	4.10	4.15	4.23	4.35	
	純度試験	P2*	0.1%未満	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.
		各々のピーク面積	0.2%未満	0.01	0.07	0.09	0.11
合計(%)		2%未満	0.03	0.11	0.13	0.22	
定量試験 (%) (液体クロマトグラフィー)	95.0～105.0	100.37	99.14	101.90	102.06		

長期保存試験 (25℃、相対湿度 60%、36 箇月)²⁾

試験項目	規格	試験開始時	12 箇月	24 箇月	36 箇月
性状	無色澄明の液である	無色澄明の液であった	無色澄明の液であった	無色澄明の液であった	無色澄明の液であった
pH	3.8～4.8	4.13	4.26	4.33	4.33
純度試験	P2*	0.1%未満	N.D.	N.D.	N.D.
	各々のピーク面積	0.2%未満	0.01	0.07	0.08
	合計(%)	2%未満	0.02	0.07	0.08
定量試験 (%) (液体クロマトグラフィー)	95.0～105.0	99.9	100.85	100.25	103.96

※P2 の構造式



6. 溶解後の安定性

該当しない

7. 他剤との配合変化
(物理化学的変化)

pH 変動スケール

規格 pH	試料 pH	試液 添加量	最終 pH	移動 指数	変化所見 (外観)
3.8～4.8	4.17	0.1mol/L HCl 10mL	最終 pH: 1.36	2.81	変化なし
	4.14	0.1mol/L NaOH 10mL	最終 pH: 12.52	8.38	変化なし

8. 生物学的試験法

該当しない

9. 製剤中の有効成分の確認
試験法

紫外可視吸光度測定法

10. 製剤中の有効成分の定量
法

液体クロマトグラフィー

11. 力価

該当しない

12. 混入する可能性のある夾
雑物

混入する可能性のある分解物としては、分解物 P2 が考えられる。
(「IV-5 製剤の各種条件下における安定性」の項参照)

13. 注意が必要な容器・外観
が特殊な容器に関する情
報

特になし

14. その他

本剤の容量、及び本容器の全満量・予備容量

容量 (実測値)	全満量	混注可能量
約 108mL	140mL	約 20mL

混注可能量：通気針を使用しない場合

V. 治療に関する項目

1. 効能又は効果	脳梗塞急性期に伴う神経症候、日常生活動作障害、機能障害の改善
2. 用法及び用量	通常、成人に1回1袋（エダラボンとして30mg）を、30分かけて1日朝夕2回の点滴静注を行う。 発症後24時間以内に投与を開始し、投与期間は14日以内とする。
<p>〈用法及び用量に関連する使用上の注意〉 症状に応じてより短期間で投与を終了することも考慮すること。</p>	
3. 臨床成績	該当資料なし
(1) 臨床データパッケージ	
(2) 臨床効果	
(3) 臨床薬理試験	
(4) 探索的試験	
(5) 検証的試験	
1) 無作為化並行用量 反応試験	
2) 比較試験	
3) 安全性試験	
4) 患者・病態別試験	
(6) 治療的使用	
1) 使用成績調査・特定 使用成績調査（特別 調査）・製造販売後 臨床試験（市販後臨 床試験）	
2) 承認条件として実 施予定の内容又は 実施した試験の概 要	

VI. 薬効薬理に関する項目

1. 薬理的に関連ある化合物又は化合物群	フリーラジカル消去作用を有する薬物：メサラジン製剤 過酸化脂質生成抑制作用を有する薬物：トコフェロール製剤 脳浮腫抑制作用を有する薬物：濃グリセリン・果糖製剤
2. 薬理作用	
(1) 作用部位・作用機序	脳保護薬。フリーラジカル除去により、細胞膜脂質過酸化を抑制して奏功する。脳梗塞急性期に使用される。 ²⁾
(2) 薬効を裏付ける試験成績	
(3) 作用発現時間・持続時間	

Ⅶ. 薬物動態に関する項目

<p>1. 血中濃度の推移・測定法</p> <ul style="list-style-type: none">(1) 治療上有効な血中濃度(2) 最高血中濃度到達時間(3) 臨床試験で確認された血中濃度(4) 中毒域(5) 食事・併用薬の影響(6) 母集団（ポピュレーション）解析により判明した薬物体内動態変動要因	該当資料なし
<p>2. 薬物速度論的パラメータ</p> <ul style="list-style-type: none">(1) 解析方法(2) 吸収速度定数(3) バイオアベイラビリティ(4) 消失速度定数(5) クリアランス(6) 分布容積(7) 血漿蛋白結合率	該当資料なし
<p>3. 吸収</p>	該当資料なし（点滴静脈内投与）
<p>4. 分布</p> <ul style="list-style-type: none">(1) 血液－脳関門通過性(2) 血液－胎盤関門通過性(3) 乳汁への移行性(4) 髄液への移行性(5) その他の組織への移行性	該当資料なし
<p>5. 代謝</p> <ul style="list-style-type: none">(1) 代謝部位及び代謝経路(2) 代謝に関与する酵素（CYP450等）の分子種(3) 初回通過効果の有無及びその割合(4) 代謝物の活性の有無及び比率(5) 活性代謝物の速度論的パラメータ	該当資料なし

6. 排泄 (1) 排泄部位及び経路 (2) 排泄率 (3) 排泄速度	該当資料なし
7. トランスポーターに関する情報	該当資料なし
8. 透析等による除去率	該当資料なし

VIII. 安全性（使用上の注意等）に関する項目

1. 警告内容とその理由	現段階で特になし
2. 禁忌内容とその理由 (原則禁忌を含む)	<p style="text-align: center;">【禁忌（次の患者には投与しないこと）】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 重篤な腎機能障害のある患者〔腎機能障害が悪化するおそれがある。〕 2. 本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者
3. 効能又は効果に関連する使用上の注意とその理由	現段階で特になし
4. 用法及び用量に関連する使用上の注意とその理由	「V-2 用法及び用量」参照
5. 慎重投与内容とその理由	<p>慎重投与（次の患者には慎重に投与すること）</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 腎機能障害、脱水のある患者〔急性腎障害や腎機能障害の悪化を来すことがある。特に投与前の BUN/クレアチニン比が高い患者では致命的な経過をたどる例が多く報告されている。（「重要な基本的注意」の項参照）〕 (2) 感染症のある患者〔全身状態の悪化により急性腎障害や腎機能障害の悪化を来すことがある。（「重要な基本的注意」の項参照）〕 (3) 肝機能障害のある患者〔肝機能障害が悪化するおそれがある。（「重要な基本的注意」の項参照）〕 (4) 心疾患のある患者〔心疾患が悪化するおそれがある。また、腎機能障害があらわれるおそれがある。〕 (5) 高度な意識障害（Japan Coma Scale 100 以上：刺激しても覚醒しない）のある患者〔致命的な経過をたどる例が多く報告されている。（「重要な基本的注意」の項参照）〕 (6) 高齢者〔致命的な経過をたどる例が多く報告されている。（「重要な基本的注意」の項参照）〕
6. 重要な基本的注意とその理由及び処置方法	<ol style="list-style-type: none"> (1) 本剤の投与は、本剤に関する十分な知識及び脳梗塞の治療経験を持つ医師との連携のもとで行うこと。 (2) 投与に際しては、患者又はそれに代わり得る適切な者に対して、本剤の副作用等について十分な説明を行うこと。 (3) 急性腎障害又は腎機能障害の増悪、重篤な肝障害、播種性血管内凝固症候群（DIC）があらわれ、致命的な経過をたどることがある。これらの症例では、腎機能障害、肝機能障害、血液障害等を同時に発現する重篤な症例が報告されている。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 検査値の急激な悪化は、投与開始初期に発現することが多いので、投与前又は投与開始後速やかに BUN、クレアチニン、AST（GOT）、ALT（GPT）、LDH、CK（CPK）、赤血球、血小板等の腎機能検査、肝機能検査及び血液検査を実施すること。本剤投与中も、腎機能検査、肝機能検査及び血液検査を頻回に実施し、検査値の異常や乏尿等の症状が認められた場合には、直ちに投与を中止し、適切な処置を行うこと。また、投与後も継続して十分な観察を行うこと。 2) 投与前に BUN/クレアチニン比が高いなど脱水状態が認めら

れた患者では、致命的な経過をたどる例が多く報告されているので、投与に際し全身管理を徹底すること。

- 3) 投与中に感染症等の合併症を発症し、抗生物質を併用した場合には、投与継続の可否を慎重に検討し、投与を継続する場合は特に頻回に検査を実施すること。また、投与終了後も頻回の検査を実施して観察を十分に行うこと。（「相互作用」の項参照）
- 4) 投与中に腎機能障害が発現した場合は、直ちに投与を中止し、腎機能不全の治療に十分な知識と経験を有する医師との連携のもとで適切な処置を行うこと。
- 5) 感染症を合併した患者、高度な意識障害（Japan Coma Scale 100 以上）のある患者においては、致命的な経過をたどる例が多く報告されているので、投与に際してはリスクとベネフィットを十分考慮すること。
- 6) 特に高齢者においては、致命的な経過をたどる例が多く報告されているので注意すること。

7. 相互作用

- (1) 併用禁忌とその理由
- (2) 併用注意とその理由

現段階で特になし

併用注意（併用に注意すること）

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
抗生物質 (セファゾリンナトリウム、セフォチアム塩酸塩、ピペラシリンナトリウム等)	腎機能障害が増悪するおそれがあるので、併用する場合には頻回に腎機能検査を実施するなど観察を十分に行うこと。（「重要な基本的注意」の項参照）	機序は不明であるが、本剤は主として腎臓から排泄されるため、腎排泄型の抗生物質との併用により、腎臓への負担が増強する可能性が考えられる。

8. 副作用

- (1) 副作用の概要
- (2) 重大な副作用と初期症状

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。

重大な副作用（頻度不明）

- (1) 急性腎障害、ネフローゼ症候群：急性腎障害、ネフローゼ症候群があらわれることがあるので、頻回に腎機能検査を実施し観察を十分に行うこと。腎機能低下所見や乏尿等の症状が認められた場合には、投与を中止し、適切な処置を行うこと。（「重要な基本的注意」の項参照）
- (2) 劇症肝炎、肝機能障害、黄疸：劇症肝炎等の重篤な肝炎、AST（GOT）、ALT（GPT）、Al-P、γ-GTP、LDH、ビリルビン等の著しい上昇を伴う肝機能障害、黄疸があらわれることがあるので、頻回に肝機能検査を実施し観察を十分に行うこと。異常が認められた場合には、投与を中止し、適切な処置を行うこと。（「重要な基本的注意」の項参照）
- (3) 血小板減少、顆粒球減少：血小板減少、顆粒球減少があらわれることがあるので、頻回に血液検査を実施し観察を十分に行うこと。異常が認められた場合には、投与を中止し、適切な処置を行うこと。（「重要な基本的注意」の項参照）
- (4) 播種性血管内凝固症候群（DIC）：播種性血管内凝固症候群があら

われることがあるので、定期的に血液検査を行うこと。播種性血管内凝固症候群を疑う血液所見や症状があらわれた場合には、投与を中止し、適切な処置を行うこと。

- (5) **急性肺障害**：発熱、咳嗽、呼吸困難、胸部X線異常を伴う急性肺障害があらわれることがあるので、患者の状態を十分に観察し、このような症状があらわれた場合には、投与を中止し、副腎皮質ホルモン剤投与等の適切な処置を行うこと。
- (6) **横紋筋融解症**：横紋筋融解症があらわれることがあるので、観察を十分に行い、筋肉痛、脱力感、CK（CPK）上昇、血中及び尿中ミオグロビン上昇が認められた場合には、投与を中止し、適切な処置を行うこと。
- (7) **ショック、アナフィラキシー**：ショック、アナフィラキシー（蕁麻疹、血圧低下、呼吸困難等）があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には、投与を中止し、適切な処置を行うこと。

(3) その他の副作用

	頻度不明
過 敏 症 注)	発疹、発赤、腫脹、膨疹、痒感、紅斑（多形滲出性紅斑等）
血 液	赤血球減少、白血球増多、白血球減少、ヘマトクリット値減少、ヘモグロビン減少、血小板増加、血小板減少
注 射 部 位	注射部発疹、注射部発赤腫脹
肝 臓	AST(GOT)上昇、ALT(GPT)上昇、LDH 上昇、Al-P 上昇、γ-GTP 上昇、総ビリルビン値上昇、ウロビリノーゲン陽性、ビリルビン尿
腎 臓	BUN 上昇、血清尿酸上昇、血清尿酸低下、蛋白尿、血尿、クレアチニン上昇、多尿
消 化 器	嘔気、嘔吐
そ の 他	発熱、熱感、血圧上昇、血清コレステロール上昇、血清コレステロール低下、トリグリセライド上昇、血清総蛋白減少、CK(CPK)上昇、CK(CPK)低下、血清カリウム低下、血清カルシウム低下、血清カリウム上昇、頭痛、尿中ブドウ糖陽性

注) このような場合には、投与を中止するなど適切な処置を行うこと。

(4) 項目別副作用発現頻度及び臨床検査値異常一覧

該当資料なし

(5) 基礎疾患、合併症、重症度及び手術の有無等背景別の副作用発現頻度

該当資料なし

(6) 薬物アレルギーに対する注意及び試験法

【禁忌（次の患者には投与しないこと）】
本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者

	<div data-bbox="512 129 1417 327" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>重大な副作用（頻度不明）</p> <p>7) ショック、アナフィラキシー：ショック、アナフィラキシー（蕁麻疹、血圧低下、呼吸困難等）があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には、投与を中止し、適切な処置を行うこと。</p> </div> <div data-bbox="512 365 1417 533" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>その他の副作用</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;"></td> <td style="text-align: center;">頻度不明</td> </tr> <tr> <td>過敏症^{注)}</td> <td>発疹、発赤、腫脹、膨疹、瘙癢感、紅斑（多形滲出性紅斑等）</td> </tr> </table> </div> <p>注) このような場合には、投与を中止するなど適切な処置を行うこと。</p> <div data-bbox="129 618 403 651" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>9. 高齢者への投与</p> </div> <div data-bbox="512 618 1417 770" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>一般に高齢者では生理機能が低下しているので、副作用があらわれた場合は投与を中止し、適切な処置を行うこと。特に高齢者においては、致命的な経過をたどる例が多く報告されているので注意すること。（「重要な基本的注意」の項参照）</p> </div> <div data-bbox="129 810 488 884" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>10. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与</p> </div> <div data-bbox="512 810 1417 965" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>(1) 妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には投与しないことが望ましい。〔妊娠中の投与に関する安全性は確立していない。〕</p> <p>(2) 授乳中の婦人には本剤投与中は授乳を避けさせること。〔動物実験（ラット）で乳汁中への移行が報告されている。〕</p> </div> <div data-bbox="129 1003 403 1037" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>11. 小児等への投与</p> </div> <div data-bbox="512 1003 1417 1037" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>小児等に対する安全性は確立していない（使用経験が少ない。）</p> </div> <div data-bbox="129 1095 488 1169" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>12. 臨床検査結果に及ぼす影響</p> </div> <div data-bbox="512 1095 681 1128" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>該当資料なし</p> </div> <div data-bbox="129 1211 320 1245" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>13. 過量投与</p> </div> <div data-bbox="512 1211 681 1245" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>該当資料なし</p> </div> <div data-bbox="129 1288 376 1321" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>14. 適用上の注意</p> </div> <div data-bbox="512 1288 1417 1561" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>投与時：</p> <p>(1) 高カロリー輸液、アミノ酸製剤との混合又は同一経路からの点滴はしないこと。〔混合すると、その後エダラボンの濃度低下を来すことがある。〕</p> <p>(2) 抗痙攣薬の注射液（ジアゼパム、フェニトインナトリウム等）と混合しないこと。〔白濁することがある。〕</p> <p>(3) カンレノ酸カリウムと混合しないこと。〔白濁することがある。〕</p> </div> <div data-bbox="129 1599 376 1632" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>15. その他の注意</p> </div> <div data-bbox="512 1599 1417 1832" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>(1) 本剤投与中あるいは投与後に、脳塞栓の再発又は脳内出血が認められたとの報告がある。</p> <p>(2) 24 時間持続静注によるイヌ 28 日間投与毒性試験において、60mg/kg/日以上用量で、四肢動作の限定、歩行異常等の症状及び病理組織検査における末梢神経及び脊髄（背索）の神経線維変性が観察されたとの報告がある。</p> </div> <div data-bbox="129 1870 293 1904" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>16. その他</p> </div> <div data-bbox="512 1870 738 1904" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>現段階で特になし</p> </div>		頻度不明	過敏症 ^{注)}	発疹、発赤、腫脹、膨疹、瘙癢感、紅斑（多形滲出性紅斑等）
	頻度不明				
過敏症 ^{注)}	発疹、発赤、腫脹、膨疹、瘙癢感、紅斑（多形滲出性紅斑等）				

Ⅸ. 非臨床試験に関する項目

1. 薬理試験	
(1) 薬効薬理試験（「Ⅵ. 薬効薬理に関する項目」参照）	
(2) 副次的薬理試験	該当資料なし
(3) 安全性薬理試験	該当資料なし
(4) その他の薬理試験	該当資料なし
2. 毒性試験	該当資料なし
(1) 単回投与毒性試験	
(2) 反復投与毒性試験	
(3) 生殖発生毒性試験	
(4) その他の特殊毒性	

X. 管理的事項に関する項目

<p>1. 規制区分</p> <p>2. 有効期間又は使用期限</p> <p>3. 貯法・保存条件</p> <p>4. 薬剤取扱い上の注意点 (1) 薬局での取り扱い上の留意点について</p> <p>(2) 薬剤交付時の取扱いについて（患者等に留意すべき必須事項等）</p> <p>(3) 調剤時の留意点について</p> <p>5. 承認条件等</p> <p>6. 包装</p> <p>7. 容器の材質</p> <p>8. 同一成分・同効薬</p> <p>9. 国際誕生年月日</p> <p>10. 製造販売承認年月日及び承認番号</p>	<p>製 剤：処方箋医薬品 (注意－医師等の処方箋により使用すること) 有効成分：該当しない</p> <p>使用期限：ラベル及び外箱に表示（3年）</p> <p>室温保存</p> <p>【取扱い上の注意】</p> <p>(1) 本品を包んでいる外袋は使用時まで開封しないこと。また開封後は速やかに使用すること。</p> <p>(2) インジケーター（ピンクの錠剤）を正常に働かせるため、直射日光にさらさないこと。</p> <p>(3) 次の場合には使用しないこと。</p> <p>1) 外袋が破損しているときや内容液が漏出しているとき。</p> <p>2) インジケーター(ピンクの錠剤)が青紫～青色に変色しているとき。</p> <p>3) 内容液に混濁、析出物など異常が認められたとき。</p> <p>4) ゴム栓部のカバーシールがはがれているとき。</p> <p>(4) 注射針はゴム栓の○印にまっすぐ刺すこと。</p> <p>(5) 容器の液目盛りはおおよその目安として使用すること。</p> <p>(6) 通気針は不要である。</p> <p>くすりのしおり：有り、患者向医薬品ガイド：有り</p> <p>「Ⅷ-14 適用上の注意」参照</p> <p>該当しない</p> <p>エダラボン点滴静注 30mg バッグ「アイロム」：100mL×10袋</p> <p>容 器：プラスチック製ソフトバッグ ゴム栓：イソプレングム</p> <p>同一成分：ラジカット点滴静注バッグ 30mg、ラジカット注 30mg 等 同 効 薬：アルガトロバン水和物、オザグレルナトリウム</p> <p>2001年4月4日</p> <table border="1" data-bbox="544 1868 1449 1989"> <thead> <tr> <th>販売名</th> <th>製造販売承認年月日</th> <th>承認番号</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>エダラボン点滴静注 30mg「アイロム」</td> <td>2011年1月14日</td> <td>22300AMX00088000</td> </tr> </tbody> </table>	販売名	製造販売承認年月日	承認番号	エダラボン点滴静注 30mg「アイロム」	2011年1月14日	22300AMX00088000
販売名	製造販売承認年月日	承認番号					
エダラボン点滴静注 30mg「アイロム」	2011年1月14日	22300AMX00088000					

11. 薬価基準収載年月日	2011年6月24日								
12. 効能又は効果追加、用法及び用量変更追加等の年月日及びその内容	該当しない								
13. 再審査結果、再評価結果公表年月日及びその内容	該当しない								
14. 再審査期間	該当しない								
15. 投薬期間制限医薬品に関する情報	本剤は、投薬（あるいは投与）期間に関する制限は定められていない。								
16. 各種コード	<table border="1" data-bbox="544 629 1444 752"> <thead> <tr> <th data-bbox="544 629 794 707">HOT（9桁）番号</th> <th data-bbox="794 629 1129 707">厚生労働省薬価基準収載 医薬品コード</th> <th data-bbox="1129 629 1444 707">レセプト 電算コード</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="544 707 794 752">120436001</td> <td data-bbox="794 707 1129 752">1190401G1018</td> <td data-bbox="1129 707 1444 752">622043601</td> </tr> </tbody> </table>			HOT（9桁）番号	厚生労働省薬価基準収載 医薬品コード	レセプト 電算コード	120436001	1190401G1018	622043601
HOT（9桁）番号	厚生労働省薬価基準収載 医薬品コード	レセプト 電算コード							
120436001	1190401G1018	622043601							
17. 保険給付上の注意	本剤は保険診療上の後発医薬品である。								

X I . 文 献

1. 引用文献	1) ネオクリティケア製薬社内資料：安定性試験（2015）
2. その他の参考文献	2) ネオクリティケア製薬社内資料：安定性試験（2020） 3) 第十七改正日本薬局方解説書,C-833,2016
	特になし

X II . 参 考 資 料

1. 主な外国での発売状況	該当しない
2. 海外における臨床支援情報	該当資料なし

X III . 備 考

その他の関連資料	特になし
----------	------

管理 NO. 20-082